

非接触バイタル感知センサーの開発・応用を極める 「見守りベッドセンサー」 「見守りルームセンサー」

ミオ・コーポレーション

ミオ・コーポレーション(相模原市中央区南橋本、井出智祥社長、042・771・7300)では、少子高齢化が進む日本でニーズの高まる「介護」に着目。ベッドにセンサーを埋めこむベッドタイプの「見守りベッドセンサー」、部屋の壁などに設置するルームタイプの「見守りルームセンサー」を開発した。この製品は、第二次大戦中に障害物の先で敵の兵士の動作を把握するため開発されたドップラーセンサーの技術を応用したものである。

「見守りベッドセンサー」は同社独自のマイク口波で要介護者の離床、着床やバイタル値(脈、呼吸、体動)を感知し、使用目的に応じて、パソコンやタブレット端末を通じてメールなども情報発信できるので、遠隔地からの見守りも可能である。同製品の特長としては、①非接触で脈、呼吸、体動のセンシングができる。②体動のデータに含まれる脈と呼吸の成分をセンサー内部で選別し、脈、呼吸、体動の数値

データを出力できる。③センサー内部に閾値を設け、脈、呼吸、体動の有無を自動で判断し出力できる。介護施設にも、要介護者の状況によっては監視されているという嫌悪感で防犯カメラを壊されるなど、さまざまな問題が起きる。しかし、ベッドに内蔵する同製品なら、要介護者に心理的な負担を与えることなく見守ることができる。



見守りベッドセンサー



見守りルームセンサー

さらに、「見

守りルームセンサー」は介護分野だけではなく一般家庭でも活用できる。例えば幼児の留守番では、センサーの認識エリアを外れた場合や、外部からの侵入時に警報を発信する。その他にも、睡眠記録や動物の手術後の経過確認にも応用が期待される。離れた位置から人や動物の体の状況を把握できる同製品は、アイデア次第で幅広い用途に応用できるだろう。

より暮らしやすい社会の実現へ、さらなる製品開発・改良をめざす同社の挑戦はまだ続く。